

## みどりの風

2025

4

令和7年

今月の表紙「スマイル」(撮影:西田 晴美 様)

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



## CONTENTS

- 夏の参議院熊本選挙区の候補に馬場成志氏を推薦決定
- 備蓄米放出とコメ政策
- 第13回未来に伝えたい農業・農村の風景  
フォトコンテスト入選作決定
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 山田としお氏コラム
- JA女性 想いをひとつに かなえよう✿
- 中央会・連合会からのお知らせ

## あぜみち

高値が続く米取り引き、夏の猛暑や秋の天候不順により高騰する野菜、高値で推移する飼料や肥料価格、ガソリン価格を抑制する補助金が縮小されたことによる燃油の高騰、一方で思うように進んでいないのが農畜産物の価格転嫁だ。政府も検討を進めており、農畜産物の価格形成に関する法案が3月上旬にも国会へ提出される。

このような農家の苦しみをどのようにして解決していくのか、ここに農政活動の意義がある。一人ひとりの小さな農家の声を集約し、理解者を広げてみんなの声として政治の場に届ける必要がある。そのために、全国のJAを通じて生産現場の声を集め、政府・与党に要請活動を展開しなければならぬ。また、政策実現のためには、行政への働きかけと農家の切実な声を代弁し、積極的に働きかけを行う議員を増やし、支援していくことが不可欠である。

全国農政連は、現在、参議院選挙で2名の国会議員を輩出している。しかし、過去5回の総得票数は、右肩下がり減少し、平成19年の約45万票から前回の令和4年では、約18万票と約4割にも減少し、JAグループとしての組織力の低下が顕著になった。

今回の参議院選挙に自民党から全国比例区への出馬予定者には、熊本県出身者や熊本県庁に出身し勤務したことのある元官僚などが3名もおり、本県は票の争奪戦の様相を呈している。

食料安全保障が叫ばれる中、JAグループの存在意義が問われる選挙となる。我々の主張や要望を反映させるためには、農業に理解のある国会議員を継続的に国会の場に送り出すことが重要だ。県農政連はその取り組みを一層強化していく。

# 夏の参議院熊本選挙区の候補に馬場成志氏を推薦決定

熊本県農政連は、2月5日第4回農政連委員会を開催し、本年夏に予定されている参議院熊本選挙区の推薦候補者について、各総支部での組織討議を踏まえ対応を協議しました。

その結果、推薦候補として、現参議院議員の馬場成志氏を決定しました。

馬場氏は参議院議員2期連続当選で、総務副大臣や厚生労働大臣政務官などを歴任してきました。

県内11地区の総支部では馬場成志氏からの推薦申請を受け、組織討議を行い意見集約の上、2月5日の農政連委員会に臨み、馬場成志氏を全会一致で参議院熊本選挙区の推薦候補に決定しました。

今年夏の参議院選挙では、熊本県選挙区には、馬場成志氏を、全国比例区には、東野秀樹氏を推薦することになりました。両名とも自民党公認候補として出馬が決定していますが、未だ冷めやらぬ政治と力ネの問題は、先の衆



▲第4回農政連委員会の様子

議院選挙で味わった自民党・公明党与党の過半数割れを危惧しての戦いとなります。

JAGグループ役員、盟友、青壮年部、女性部には、農政運動の意義をしつかりと理解していただき、一人でも多くの仲間を増やしていただきたいと思います。

参議院議員通常選挙熊本選挙区推薦候補者の横顔

- ・馬場成志氏
- ・熊本県熊本市生まれ（60歳）
- ・熊本市議会議員2期
- ・熊本県議会議員5期（県議会議長）
- ・参議院議員2期（総務副大臣）
- （厚生労働大臣政務官）

## 農政に対する抱負

農業は大転換期を迎えている。農家が支援を求める背景をよく理解することが重要であり、安定的な農業政策の強化と熊本県の課題である農地の確保に取り組みたい。また、生産性が高い儲かる農業の構築を推進し、農業の効率化を一層図ることで、急務である人手不足や担い手の確保に繋げ、新規就農者への支援策の充実にも励みたい。



▲馬場成志氏

# 備蓄米放出とコメ政策

日本の主食用米の価格はどうなってしまうのか

農林水産省は2月18日、2月第1週にスーパーで販売された5キロ当たりの平均価格が、前年同期と比べ89.7%高い3,829円だったと発表しました。1月下旬に政府が備蓄米放出の新方針を表明していましたが、依然として高騰が続いています。江藤拓農水大臣は2月に最大21万トンを出すと発表し、集荷業者らを対象に、入札の仕組みや要件に関する説明会を開きました。なお、放出した備蓄米は1年以内と同じ数量を政府が買い戻します。

今回放出される備蓄米は、3月下旬にも店頭に並び見通して値下がりには転じることが注目されています。なぜ、米価が高騰しているのか。去年の生産量は、前年より18万トン増加していましたが、昨年末にJAなどの集荷業者が集めた量は、前年よりも21万トンも減少していました。この消えた21万トンが価格高騰の背景にあるとみられています。

農水省はこれまで備蓄米の放出を、凶作・大規模災害等に限りてきました。しかし、昨年夏の「令和の米騒動」以降、米の流通不足と価格高騰が続いています。備蓄米の利用は生産量が大幅に落ち込ん

だ際と規定されており、これまで農水省は備蓄米の放出に慎重でしたが、買戻しを条件とすれば利用が可能であると判断しました。

JA全中の山野徹会長は2月の定例会見で「備蓄米を活用できるように運用を見直したことについては、業者間の取引価格の上昇を落ち着かせる意図があると思うが、生産者への手取りへの影響がないようにすることも重要だ。生産者が納得でき、消費者にも理解してもらえる適正な価格を求めたい」と述べました。

一方、トランプ米大統領は「相互関税」を導入する考えを示しました。日本の自動車産業ばかりが新聞やTVニュースで取り上げられていますが、私たちの「コメ」には特に高い税率をかけて輸入を制限しています。今後の成り行きが懸念されます。

## 令和6年12月末民間在庫

### 1. 出荷・販売段階の民間在庫量 (単位:万トン)

	5年12月末	6年12月末
出荷段階	246	197
(対前年差)	▲31	▲48
販売段階	52	56
(対前年差)	0	4
合計	298	253
(対前年差)	▲31	▲44

※出荷段階は仕入数量5,000トン以上  
販売段階は仕入数量4,000トン以上

### 2. 集荷業者の集荷数量 (単位:万トン)

	集荷数量	前年比
6年12月末	215.7	91%
7年12月末	236.3	95%
対前年差	▲20.6	-

※集荷数量は5,000トン以上の集荷業者等

## 未来に伝えたい農業・農村の風景

第13回

# フォトコンテスト入選作品決定!

四季折々に移りゆく表情を見せる美しい農村の風景。その素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まった、JAグループ熊本とRKK熊本放送で主催する「未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト」も今年で13回目を迎えました。

県内で撮影された農業・農村にまつわる様々な風景の一瞬を切り取った素晴らしい作品が毎年多数寄せられ、令和6年6

月から令和7年1月末まで実施した今回のコンテストにも、県内外から175名、658点の応募がありました。その中から25作品が入選し、そのうち5作品が受賞されました。

入選作品は、県庁ロビーやRKK熊本放送本社ロビー、JA会館、JA教育センターなどで展示されます。また、作品の一部は「農村環境保全キャンペーン」のCM素材や各種印刷物の素材等として広く使用させていただきます。



グランプリ「収穫できたね」 小林 司 (熊本市)



RKK賞  
「御神幸行列」  
福永 亮二 (熊本市)



JAグループ熊本賞  
「牧野の虹」  
大嶋 俊三 (熊本市)



たのしい未来賞  
「スマイル」  
西田 晴美 (八代市)



おいしい笑顔賞  
「そのまま食べていいの?!」  
田中 しおり (熊本市)

### 入 選

みろくのそら (熊本市)  
小嶋 幸喜 (熊本市)  
谷川 洋子 (熊本市)  
小山 賢吉 (八代市)  
淵上 絵里 (八代市)  
大崎 貴之 (熊本市)  
木下 保之 (熊本市)

谷川 秀嗣 (宇城市)  
岡本 千恵子 (上益城郡)  
嶋本 桃子 (熊本市)  
大羽 くるみ (八代市)  
長井 傑 (熊本市)  
中村 妃花 (荒尾市)  
丸塚 絵梨 (八代市)

東 由依 (熊本市)  
日當 國親 (八代市)  
川上 和臣 (熊本市)  
岡田 孝一 (熊本市)  
平島 千佳 (宇城市)  
米田 順子 (熊本市)

全国農政連推薦・農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

永田町でも **百姓宣言**

【自民党会合で酪肉近の議論に参加】

2月12日(水)、自民党畜産・酪農対策委員会が開催されました。今回は、5年に1度見直しの「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針(酪肉近)」の検討のため、団体ヒアリング(JA全中・JA全農ミートフーズ・中央酪農会議・Jミルク)全国肉牛事業協同組合)が行われました。私は、様々な観点から意見(長期的視点が重要、和牛需要拡大対策の効果検証と追加対策の検討、長期的な牛肉消費構造のイメージ明確化と低価格層牛肉の対応具体化、自給飼料対策の強化、畜産・酪農生産者への金融対策の強化、獣医不足対策)を述べさせていただきました。酪肉近については、引き続き農水省審議会および党会合にて議論されていきます。



▲2月12日 自民党畜産・酪農対策委員会

【食と農消費者理解醸成PTに出席】

2月14日(金)、自民党食と農への消費者の理解醸成と行動変容に向けた施策検討PTが開催されました。会合では、学校等での食育の取り組みにかかる関係者ヒアリング(JA全国女性協、JA全青協、東京都小平市)が行われました。私は、学校での農業体験には関係者

の経費負担と学校の理解に差があること等の課題が根強くあるため、文部科学省のカリキュラムに入れ込み仕組み化する必要がある、と意見致しました。PTでは、今後も提言取りまとめに向けて議論を重ねていきます。

【東日本大震災被災地の調査視察】

2月17日(月)・18日(火)の2日間、私は参議院東日本大震災復興特別委員理事として、東日本大震災被災地の復興状況にかかる現地調査視察に伺いました。1日目は、岩手県宮古市を訪問し、漁協関係者との意見交換、岩手県こころのケアセンター職員との意見交換を行いました。また、三陸鉄道の現状も視察しました。さらに、岩手県大槌町を訪問し、大槌町長との意見交換、岩手県立大槌高等学校との意見交換を行いました。

2日目は、福島県浪江町の福島国際研究教育機構および福島県大熊町の中間貯蔵施設を視察しました。また、福島県富岡町を訪問し、特定期間居住区域等を視察しました。

発災から間もなく14年経過しますが、様々な課題があることをあらためて認識・実感することができました。委員として、国会の場でできることについて尽力して参ります。関係者の皆様、あらためて感謝申し上げます。



▲2月18日 参議院東日本大震災復興特別委員会視察・福島県富岡町

全国・農政連推薦  
参議院議員山田としおの  
**農政問題に斬り込む**

中山間地農業はわが国の食料安全保障上重要な役割を果たしています

日本の国土面積の約5割を占め、

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の多面的機能を発揮している「山村」の振興をはかるための「山村振興法」が、本年3月末で期限切れを迎えるため、自民党では、「山村振興特別委員会(委員長：岡田直樹参議院議員)において議論をすすめています。法期限の10年間延長のほか、法の目的規定にある山村の役割に「農林水産物の供給」や「地球温暖化の防止」「生物多様性の確保」等の今日的役割の追加や、移住政策、二地域居住を含む関係人口の増加促進を明確化する等、目的規定の追加・充実等を議論していきます。

さらに、2月からは野党にも働きかけ、山村振興法に関する超党派の会議を開催し、立憲民主党、日本維新の会、国民民主党、共産党等とも協議し、議員立法に向けて議論を深めています。

また、「中山間地農業を元気にする委員会(委員長：進藤金日子参議院議員)では、次期基本計画に盛り込むべき施策について、委員会としての提

言をとりまとめるべく議論がすすめられています。検討の視点としては、①条件不利地域での生業を支えるためには、どんな支援が必要か、②関係人口を増やすためには、どんな施策が必要か、③基盤整備を進めて条件不利性を解消し、中山間地域の特性を生かした稼げる農業を進めていくためには、どんな施策が必要か、というものです。

中山間地域は、国内の農家数、耕地面積、農業産出額のそれぞれ約4割を占める重要な地域です。これまで、国民の食と国土を守ってきた、これからも守っていく必要があるんだということを、広く訴えていくことでありませんか。頑張りましょう。



▲南九州の青壮年部のみなさんと

## JAくま女性部活動報告

球磨人吉盆地中央を流れる清流球磨川と豊かな台地がもたらす恵みの中で暮らす私たち「JAくま女性部」は9支部からなり、宮原みとか女性部長を中心に1,485名の部員で活発な活動を展開

### ●JAくま女性部リーダー学習会

JAくま女性部は、あさぎり支所で女性部リーダー学習会を開きました。同学習会は女性部員の知識向上と組織力強化を目的に毎年開催しています。



▲リーダー学習会の様子

今回は、国内産原料を使用した安全、安心なエコープマーク商品を中心とした共同購入愛用運動を、より深く理解してもらうことがねらいです。

当日は、女性部員・JA役職員、新入職員、関係業者を含め約100人が参加。JA熊本経済連他4社の担当者講師に招き、エコープマーク商品を使った料理の

試食も行われました。新人職員の空戸さんは「商品のアピールポイント、レシピの活用方法を色々知ることができました。実際に試してみたくなり、購入し料理に活用していきます。」と話しました。

女性部活動の強化・発展を図ることを目指している「リーダー学習会」や、女性の声をJA運動に反映するための「意見交換会」などを紹介します。

### ●意見交換会で魅力ある事業展開を!

JAくまは、あさぎり交流館「笑来笑来(わくわく)」で2024年度常勤役員・青年部女性部意見交換会を開きました。意見交換会には、各組織の部長、支部長、常勤役員27人が出席しました。

青壮年部からは肥料や飼料、燃料など生産資材の価格高騰に関することや外国人労働者に関する事などについて要望



▲意見を述べる女性部員

や質問が出されました。

価格高騰に対して常勤役員は「令和7年度農業政策・予算に関して、国、県へ要請を行った、JAとしても対策を考えていきたい」と回答しました。

女性部からは購買事業を中心に要望や意見が出され、他にも金融や総務の各事業に対して42項目で意見が交わされました。

意見交換会で出された意見を今後のJA運営に活かし、各組織間で連携強化を図りながら、更なる自己改革の実践を推進します。

### ●JAくま女性部ときめきの旅

JAくま女性部は同部員を対象に参加者を募り「ときめきの旅」と題し、長崎方面への研修旅行を行いました。



▲長崎の平和記念像にて

研修には同部員とJA職員22人が参加し、グラーパー園や軍艦島「デジタルミュージアム」を視察しました。

平和公園の「平和祈念像・平和の泉」なども見学し、平和への願いを込めて学習しました。

各地区の部員との交流で親睦を深め、女性組織としての結束が高まりました。

### ●家庭菜園コンクール

JAくま女性部は、家庭菜園コンクールを開き、管内8カ所の菜園を巡回して審査を行いました。



▲家庭菜園コンクール審査会の様子

菜園の審査には、同JA女性部の宮原みとか部長他、JA職員ら5人が立会い、土づくりや病害虫対策などの栽培技術(工夫している点)、景観、品目数、自給率、総合評価で審査を行いました。

審査の結果、あさぎり支部の松永育子さんが最優秀賞に輝きました。同コンクールは、家庭内自給率や管理技術向上を目的に毎年開いています。

最優秀賞の松永さんは、限られた面積で、大根や白菜など20品目以上の野菜を年間通して計画的に栽培していることや、土づくりや病害虫などの防除管理など、総合的に生育状況が大変よく、安全、安心な野菜作りを基本に取り組みがされていることなどが評価されました。

熊本県立大学学生に熊本県産農産物・加工品を配布

JAグループ熊本は、1月22日の両日熊本県立大学の学生に対し、熊本県産農産物の素晴らしさ、地産地消・国産国産・我が国の食料安全保障の大切さ並びにJAグループの事業・活動について知っていただく機会として、熊本県立大学の学生に対し、同大学の後援会（保護者会）とともに、県産農産物・加工品・訴求資材の提供配布を行いました。同大学では、物価高騰の影響により、厳しい日常生活を余儀なくされている学生を支援するため、令和3年度より食料品や日用品の無償配布を実施されておりました。JAグループ熊本は、この取り組みに賛同し昨年に引き続き支援を行いました。

JAグループ熊本からは全て県産の、米250袋、イチゴ100パック、デコポン250個、ミニトマト250パック、



▲JAグループ熊本が提供した農産物

ク、「ジューシーみかん100%」250個を配布しました。また、同大学の後援会（保護者会）からは、レトルト食品や日用品などを配布しました。学生からは、「二人暮らしで、米や果物は高くなって買えなかった。支援はありがたい」と声を頂きました。



▲農産物などを受け取る県立大の大学生ら



JA経済連

令和6年度農機実販推進運動成果大会を開催

熊本県JA農機自動車技術指導士会とJA熊本経済連は2月14日、経済連ホールで令和6年度農機実販推進運動成果大会を開き、JA役職員のほかメーカー担当者などおよそ60人が出席しました。同推進運動は組合員への恒常的な訪問による顧客満足度の向上とシエア拡大、担当職員の活性化を図ることを目的として、4月から12月に実施し、JAの42農機センター、211人の担当職員が参加しました。推進部門と修理サービス部門において、機種別ポイント制の販売実績と修理・整備徴収額で競いました。センター賞推進部門1位にJA鹿本北部農機センター、修理サービス部門1位にJACくま農機サービスセンターが輝きました。

その他の各部門成績上位者は次の通り（カッコ内はJA名）

【推進部門】

▼個人賞

- トラクター賞1位=菅野修弘(かみましき)
- コンバイン賞1位=八森大輔(かみましき)
- 田植機賞1位=芹口昭浩(かみましき)
- 作業機賞1位=富永信一(熊本うき)

▼新人賞

- 1位=黒川大和(かみましき)

【修理サービス部門】

- ▽個人賞 各地区11人

経済連の丁道夫会長はあいさつで「農業機械は農業、日本の食を支える

重要な役割を担っている。スマート農機など先端技術にも対応できるように、整備、技術レベル向上に向け取り組んでほしい」と述べました。



▲丁会長より表彰を受ける受賞者ら

# 令和6年度 JA共済 全国小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール大賞受賞！

JA共済では、地域貢献活動の一環として、次代を担う全国の小・中学生を対象に、書写教育と美術教育を通じて交通安全等に対する意識啓発を目的として、『書道コンクール』および『交通安全ポスターコンクール』を毎年開催しています。

今年度の熊本県コンクールで特別賞を受賞した作品が全国コンクールへ選出され、応募作品総数990、251点の中から、書道コンクルールの部で麦島小学校6年の三島佳子さんが栄えある「農林水産大臣賞（書道・条幅の部）」に輝きました。

令和7年2月7日（金）、JA共済ビル カンファレンスホール（東京都千代



▲式典時の受賞風景

田区)において書道コンクールと交通安全ポスターコンクルールの表彰式が開催され、大賞を受賞された三島佳子さんとそのご家族が表彰式に出席されました。賞状授与ではご家族と多くの出席者に見守られながら賞状と副賞を受け取る佳子さんに、惜しみない拍手が送られました。

これからも、JA共済は書道・交通安全ポスターコンクルールの開催を通じて、次代を担う小・中学生の書写教育や美術教育に貢献するとともに、コンクール出品作品の創作過程で培われる「思いやりの心」や「交通安全思想」を育む活動を続けてまいります。



▶作品の前で笑顔の三島佳子さん

農林水産大臣賞（書道条幅の部）



## JA厚生連

# 『COPD』について

COPD「慢性閉塞性肺疾患（まんせいはいそくせいはいしつかん）」とは、従来、「慢性気管支炎（まんせいきかんしえん）」や「肺炎腫（はいきしゅ）」と呼ばれてきた病気の総称です。

タバコの煙を主とする有害物質を長期にわたり吸い込むことで、肺が炎症を起こし、呼吸がしにくくなります。厚生労働省の統計（令和3年発表）によると、日本での死亡数は男性に多く、8位となっています。

### 【慢性気管支炎とは】

炎症や痰（たん）などにより、気管支の内側が狭くなり、正常な呼吸が出来なくなるのが「慢性気管支炎」です。

### 【肺炎腫とは】

肺はスポンジのような構造ですが、慢性的な炎症が起こると、スポンジの目が粗くなり、肺がスラスラな状態になつてしまいます。

その結果、正常な呼吸が出来なくなるのが「肺炎腫」です。

### 【COPDの有病率】

大規模な疫学調査研究N-CEスタディ（平成13年発表）の結果、日本人の40歳以上のCOPD有病率は8.6%、患者数は530万人と推定されています。

しかし、3年ごとに実施されている厚生労働省患者調査の最新の発表によると、病院で治療を受けている患者数は36万2千人です。

つまり、COPDであるのに受診していない方が約500万人いることになります。

### 【COPDの症状】

代表的な症状は以下のとおりです。  
・しつこい咳や痰  
・ゼーゼー、ヒューヒューする呼吸音  
・動いた時の息苦しさ  
他にも胸が痛い、体重減少、発熱など、肺以外の症状も同時に起こる場合もあります。

### 【検査（人間ドック）を受けましょう】

COPDの代表的な初期症状は、風邪や加齢、体力低下と勘違いし見過ごされることがあり、進行すれば不整脈や肺がんのリスクも高まるとされています。

特に喫煙歴が長い場合はCOPDのリスクが高まるため、気になる症状がある場合は内科（主に呼吸器内科）の受診をお勧めします。


また、厚生連の人間ドックにも肺機能検査は含まれておりますので、年に1度は人間ドックを受けましょう。



国産消費で、日本の「食」に安心を！  
日本の「食」は、どうなる？


私たちの食べものは、自然の力を活かし、多くの時間をかけて作られています。足りなくなったからといって、すぐに作ることはできません。でも、日本の「食」は今、多くのリスクを抱えています。

食料の多くを輸入に頼る日本。輸入がもし止まったら、どうなる？




日本の「食」が直面している「5つのリスク」

世界や日本で自然災害が増加。農業が受けるダメージは、どうなる？



農家と農地が減っている。私たちの食べものは、どうなる？


約120万人 2022年 基幹的農業従事者数  
約30万人 約20年後



※ 農水省による推計（「農業構造動向調査」より）

増え続ける世界の人口と食料需要。輸入に頼る日本は、どうなる？

80億人 2022年  
97億人 2050年




※ 国連広報センターによる推計

高止まりする肥料・家畜のエサ・燃料。農家の経営は、どうなる？

エサ 139.5  
肥料 134.1  
燃料 129.7

高騰する生産資材  
2020年を100とする



※ 農水省令和6年5月農業物価統計調査

どれも大きなリスクですが、私たちにもできることがあります。日々の食卓に「国産」を取り入れる。それが日本の農業を応援し、「食」を未来につないでいくこととなります。



JAグループ熊本の国消国産ページ



JA全中の国消国産ページ



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

もしものときの、頼れる保障。



JAの自動車共済クルマスターなら、充実した保障とサービスをムダなくお得に備えられます。

くらの保障、相談するなら



※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。  
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

2443990293

モンドセレクション2024  
金賞受賞



純米かすてら  
Rice Castella



YAHOO! JAPAN ショッピング お買い求めはコチラから



JA熊本経済連

あ  
と  
が  
き

「親子で里いも掘り」



撮影：米田 順子 様

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景 フォトコンテスト入選作品

皆さんは、何をもちて春の訪れを感じますか。梅の開花、桜の開花、花粉の飛散、卒業式・入学式、春の定期異動、等々があげられるでしょう。三寒四温という言葉が表すように、日常の体感で春の訪れを感じる方もいらっしゃるでしょう。春につきものが引越す時です。大学進学に伴う一人暮らし、社会人としての引越し、家族揃っての引越し、単身赴任、などそれぞれの事情によって引越しの形態は違ってきます。昨年は、2024年輸送問題もあって、3月に引越しできなかった方が大勢いたようです。

自力引越すという、個人で車の手配を行い、荷づくりして引越す方法が一番費用が安く済むかもしれませんが、引越し業者に依頼すると、高額な費用が発生します。特に3月は引越しが集中するため、1年間で一番料金が高くなります。通常期の2倍近い費用が発生します。

私も大学卒業と就職してからの単身赴任では、自力引越しをしました。

発行／熊本県農業者政治連盟

熊本市中央区南十反町2-3 電話 096-333-0881-1284  
編集責任者／中村 隆宏  
●発行日／令和7年3月15日・毎月1回15日発行  
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）